

JR大高駅

スタート ゴール

1886年（明治19年）3月1日、東海道本線敷設のため、知多半島の武豊から半田、亀崎、緒川、大高と熱田まで駅が敷かれた。名古屋市内で一番古い鉄道駅で、当時は単線でホーム1本がある無人駅であった。その後東海道本線開通とともに駅舎が改築され、1962年（昭和37年）新幹線工事により、線路の上に駅舎が建つという珍しい駅となった。1978年（昭和53年）線路は高架化され、現在に至っている。

大高城下町コース

JR大高駅 → 250m → 道しるべ地蔵 → 500m → 念仏橋 → 150m → 山盛酒造 → 50m → 薬師寺 → 150m → 戦国時代の道筋 → 300m → 萬乗醸造 → 150m → 本町公会堂 → 150m → 大高城跡公園 → 100m → 秋葉社 → 100m → 大橋 → 250m → 八幡社 → 400m → JR大高駅

① 道しるべ地蔵

大高北小学校内正門東に「道しるべ地蔵」がある。お地蔵さまの両脇に道のゆくえを示す地名「右 よこすか 左 かめざき」が彫ってある。この道しるべ地蔵が設置されたのは、江戸時代の後期か明治時代の初期で、場所は大高北小学校北の所と推定されている。右に行けば知多半島西岸の「横須賀」（今の東海市横須賀町）、左に行けば知多半島東岸の亀崎（今の半田市亀崎町）と案内してある。当時、名古屋方面から知多半島へ行くには、すべて大高を通過していた。

② 念仏橋

大高は、江戸時代、大高川を利用した舟運が盛んで、この付近は川湊があった。今はないが橋の南西のたもとには、海上安全にご利益のある青峰観音を鎮祭した祠があった。この橋の付近の住民は、「念仏講」を組織して、橋を作ったことから「念仏橋」と名付けられたと云われている。現在、青峰観音は、高見地区にある薬師寺境内に安置されている。

③ 山盛酒造

別記「酒蔵」をご覧ください。

④ 薬師寺

1691年（元禄7年）春江院五世愚徹が開基した。本尊は伝湛慶作の薬師瑠璃光如来像で秘仏と云われている。16年ごとにご開帳される。念仏橋のたもとにあった青峰観音が安置されている。

⑤ 戦国時代の道筋

戦国時代の街づくりは、外部からの敵の侵入に備え、かぎの手、T字路の道筋となっている。

⑥ 萬乗醸造

別記「酒蔵」をご覧ください。

⑦ 本町公会堂

この公会堂は、昭和の初めから、「しみたれ饅頭」を扱っていた店舗であったが、昭和26年廃業し、建物は本町の町内会に寄贈された。屋根の左右に大黒天と恵比寿の鬼瓦を置いていたが、公会堂を改修した際、軒下に移された。

⑧ 大高城跡公園

別記「大高城跡公園」をご覧ください。

⑨⑨ 秋葉社

昔から大高は火事が多く、村民が恐れ、最も賑やかなT字路のこの場所に防火の神「火之迦具土神」を祀ったと云われ、創建は不明である。江戸時代、この付近は大高の中心地で「辻」と呼び、江明市場（よめちば）が立ち、賑わった。

⑩⑩ 大橋

大高川に架かる橋で、天保村絵図には板橋で描かれて、大高の主要な橋である。大橋付近は「舟戸町」と云われ、舟運を利用した造り酒屋、材木商、樽製造業、精米所等が川沿いにあった。

⑪⑪ 八幡社

社伝によれば、大高城主花井備中守が鶴岡八幡宮から勧請し、村人が参拝する社であった。桶狭間の戦いの翌年1561年（永禄4年）松平元康（のちの徳川家康）がこの神社を参詣したとの記録がある。

酒蔵

③ 山盛酒造

1887年（明治20年）創業。
銘柄 「鷹の夢」

⑥ 萬乗醸造

1647年（正保4年）創業。
銘柄 「醸し人九平次」

● 神の井酒造

1856年（安政3年）創業。
銘柄 「神の井」

◎ 名古屋の酒どころ 大高

大高に酒造業が生まれた起源は、詳しくは解らない。1697年（元禄10年）江戸時代に酒株制度が敷かれ、当時の酒株帳によると、大高村は二百石であった。安政年代の頃、尾張藩は財源獲得の手段として、百石につき150両で酒造業の新株を無制限に許可したので、生産量が大幅に増加した。造った酒は樽舟によって、江戸まで送られたものもあった。

1880年（明治13年）酒造業者は9軒あった。現在名古屋市内の酒造業者は5軒あり、このうち3軒が大高にある。

別記

鷲津砦跡・丸根砦跡・大高城跡コース

JR大高駅 → 250m → 鷲津砦跡 → 700m → 丸根砦跡 → 100m → 下村神社 → 450m → 菊井橋 → 150m → 津島社 → 350m → 兵糧入れの道筋 → 350m → 大手門跡を眺望 → 350m → 大高城跡公園 → 100m → 秋葉社 → 100m → 大橋 → 250m → 八幡社 → 400m → JR大高駅

砦跡

別記

① 鷲津砦跡

○標高30m、東西40m、南北69mの広さの砦。現在は砦の形相は分らない。
○1559年（永禄2年）織田信長が大高城を監視し、孤立させるために、丸根砦とともに築いた。
○1560年（永禄3年）5月19日未明、今川勢の朝比奈泰朝ら約2千人が、飯尾定宗、織田信平ら約500人の織田勢を攻め立て陥落させた。
○1938年（昭和13年）国の指定史跡になった。

② 丸根砦跡

○鷲津砦の東南約700mの地点にあり、織田信長が大高城を監視するため、鷲津砦とともに築いた砦である。標高35m、東西36m、南北28mの楕円状の形である。
○1560年5月19日未明、佐久間盛重が約500人で守っていたが、松平元康（のちの徳川家康）が攻めて陥落した。

○1938年（昭和13年）、国の指定史跡になった。

⑧⑧大高城跡公園

別記

桶狭間の戦い前の大高城

○築城年は不明である。標高20m、東西106m、南北32mの台形様の平山城。四方に二重堀があったが、現在は一部形跡が残る。
○1530年頃（天文の初年頃）水野忠氏、大膳親子が居城し織田信秀の支配下にあった。
○1551年（天文20年）織田信秀の死後、織田信長から離反した鳴海城主山口教継の調略で今川方の城となった。
○1560年（永禄3年）5月18日夜、今川勢の松平元康（のちの徳川家康）が弱冠19歳で、大高城に兵糧を入れた。

桶狭間の戦い時の大高城

○1560年5月19日未明、丸根砦を陥落させた松平元康が大高城で休息し、守備していた鶴殿長照に替わって城主となった。

桶狭間の戦い後の大高城

○1560年5月19日夕方、松平元康は義元の討ち死を知り確認した後、深夜、岡崎に向かった。
○桶狭間の戦い後廃城となり、1616年（元和2年）尾張藩家老（1万石）志水甲斐守忠宗が、大高を治め、三の丸跡に屋敷を構えた。
○1870年（明治3年）館は売却された。
○1938年（昭和13年）国指定の史跡となった。

城山八幡社

○本丸西端に、大高城主花井備中守が鶴岡八幡宮を勧請した。江戸時代、武士が参拝した。

① 鷲津砦跡

別記「砦跡」をご覧ください。

② 丸根砦跡

別記「砦跡」をご覧ください。

③ 下村神社

丸根砦跡から南西方面に下ると、すぐ近くに祠がある。南北朝時代1336年頃、志摩国（三重県鳥羽市小浜付近）から来た下村九郎兵衛が、国常立尊（くにのとこたちのみこと）を勧請した。毎年9月最終日曜日に、大高に住む下村氏の子孫が集まり大祭が行われる。

④ 菊井橋

大正年間、豊田紡織系の菊井紡績が今の「森の里」地区に工場を建設し、天神交差点から工場へ通じる道路を造り、大高川に橋を架けた。橋の名前は会社の名前をとって「菊井橋」と名付けた。しかし、その後諸情勢から菊井紡績の工場建設は中止となり、1935年（昭和10年）大日本紡績が工場を建設した。橋の名前はそのまま「菊井橋」として残り、現在に至っている。

⑤ 津島社

森の里団地西側の森に「津島社」への参道があり、石碑が立っている。津島社は祭神「素戔鳴尊」（すさのをのみこと）を祀っているが、江明（えみょう）地区の氏神で、創建は不詳である。津島社の隣に「天満社」がある。

⑥ 兵糧入れの道筋

桶狭間の戦いの前、1560年（永禄3年）5月18日夜、今川方の松平元康が、大高城に兵糧を入れたことは有名である。兵糧入れの道は、沓掛（現在の豊明市沓掛町）から大高に通じる「大高道」を通ったと云われ、細い、曲がりくねった道は、戦国時代の道筋の名残りである。

⑦ 大手門跡を眺望

松平元康は、大高城の大手門から兵糧を入れたと云われている。現在大手門は残っていない。

⑧ 大高城跡公園

別記「大高城跡公園」をご覧ください。

参考資料

緑区誌・名古屋史シリーズ緑区の歴史・名古屋市の史跡と文化財・名古屋市史・愛知百科辞典